

♪ 2018年度

poco a poco

♪

Nr. 7

2018年6月25日(月) 文責: プファイル・辰巳

夏至も過ぎ・・・

日の長いドイツの夏。でも先週が夏至でしたから、この後は冬至に向かってまた日が短くなっていくわけですが、今はとにかく、お日様からのエネルギーをしっかりと蓄えておきたいものですね。

ヘッセン州の現地校は一足早く夏休みに入ってしまった。日本人学校は後4週間ほど1学期が続きます。しっかりと1学期のまとめをして、元気に夏休みを迎えられるようにしましょう！



1学期ミニコンサート

申し込み締め切りは明後日6月27日水曜日！

1学期のミニコンサートに出演したいと思っているみなさん、申込用紙はもう出しましたか？ 締め切りは明後日です。忘れずに申し込みを済ませてくださいね。

本番は7月5日(木)です。20分休みや昼休み、放課後など空いている時は音楽室で練習してもよいですが、ピアノをひとり占めしないで、ゆずり合って使ってくださいね。

音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑭ クララ・シューマン

天才ピアニストの作品「3つのロマンス Op. 11」>

クララ・シューマンは、ドイツの作曲家ロベルト・シューマンの妻として、また子どもの頃から天才少女ピアニストと騒がれた演奏家として有名な女性です。夫ロベルトの死後は、若き作曲家ブラームスと親交が深く、年上の恋人ではないかと噂されたこともあります。

1819年にライプツィヒで生まれたクララ(旧姓ヴィーク)は、ピアノ教師の父から手ほどきを受け、その天才ぶりを少女時代から発揮しました。10代

後半に知り合ったロベルト・シューマンと恋に落ちましたが、二人の結婚には父フリードリッヒ・ヴィークは大反対でした。

本日紹介します「3つのロマンス」という曲は、ちょうどこの時期に作曲された作品だそうです。1939年、クララは19歳でした。ロベルトとの文通さえもままならない父の猛反対の中、クララはついに父の家を捨て、ロベルトと共に生きる道を選ぶことを決めます。

「3つのロマンス」はその恋人ロベルト・シューマンに献呈されています。女性らしい愛らしさ、天才ピアニストならではの技巧的なフレーズに加え、少女から大人の女性へと成長していく、クララの苦悩と哀愁が加わり、たいへん美しい曲に仕上がっています。演奏家(ピアニスト)としてだけではなく、作曲家としての資質も十分に持ち合わせたスーパーウーマンだったようですね。

父の反対を押し切り、ロベルトと結ばれたクララは、16年間の結婚生活で8人の子の母となりながらも、天才ピアニストとしてヨーロッパ各地の演奏会で活躍を続けました。それは、若くして夫を亡くした(1856年)後も変わらず、ドイツの町々を転々と移り住みながら演奏活動を続けました。

クララ・シューマンは、当地フランクフルトとも所縁の深い演奏家・作曲家でもあります。1878年から亡くなる1896年までの晩年を、この町で過ごしました。現在も音楽やバレエを学ぶ人が集まる音楽高等学校コンザヴァトリウム(Conzavatrium)の教師として迎えられたのです。ヴェストエンド地区のミリウス通り(Myliusstrasse)32番地には、今でも彼女が住んでいた家が残っています。個人のお宅なので中に入ることはできませんが、家の壁に記念板がはまっています。

クララ・シューマンはフランクフルトで亡くなったのですが、お墓はボンという町にあります。彼女の生前の希望通り、夫ロベルトのお墓の隣に葬られたということです。蛇足ながら、ユーロに通貨統一される以前のドイツのお札、100マルク紙幣の肖像画はクララ・シューマンでした。



ほんのちょっとだけ 演奏会情報

聖カタリーネン教会(ハウプトヴァッヘ)のパイプオルガン・コンサート
7月8日(日) 18時から “バッハとフランスのオルガン芸術”
7月22日(日) 18時から “ピアノとオルガンの狭間で”